

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成28年4月

福井県知事 西川 一誠
土木部長 辻 義則

28年度目標（30年度目標）

28年度の施策

1 美しい県土、楽しく便利なまちの形成

◇高速交通ネットワークの完結促進【部局連携】

○中部縦貫自動車道の整備促進

- ・永平寺大野道路については、永平寺～上志比間の工事促進を国に要請し、平成28年度内の確実な全線開通を目指します。
- ・大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通を国に強く要請します。
- ・大野油坂道路の大野東～和泉間については、今年度内に用地取得を完了し、平成29年度の荒島第2トンネル（仮称）工事の着手を国に要請し、早期整備を目指します。
- ・大野油坂道路の和泉～油坂間については、残る用地取得を進めるとともに取得が完了した区間の工事着手を国に要請し、早期整備を目指します。
- ・大野油坂道路の大野～大野東間については、平成29年度の用地取得着手に向けて、幅杭打設など用地測量の促進を国に要請し、早期整備を目指します。

○若狭さとうみハイウェイの機能強化

- ・舞鶴西～敦賀間の4車線化を国と高速道路株式会社に要請し、早期着手を目指します。
- ・平成28年度供用予定の敦賀南スマートインターチェンジと平成29年度供用予定の三方PAスマートインターチェンジ(仮称)の整備促進を国と高速道路株式会社に要請し、早期供用を目指します。
- ・県内外のイベントにおいて時間短縮効果などの利便性向上の情報発信を行い、若狭さとうみハイウェイの利活用促進を図ります。

◇道路・港湾の重点整備と利用促進【部局連携】

○主要道路・県境道路の整備

- ・県民の安全と利便性、地元や市町の協力体制なども考慮し、優先度をつけて**計画的に整備**を進め、永平寺大野道路の平成28年度全線開通に合わせた勝山インター線などのアクセス道路等を供用します。
(平成27年度 1箇所)

5箇所 累計6箇所(4年間計13箇所)

- ・福井港丸岡インター連絡道路については、用地測量および用地取得を進め、事業の推進を図ります。
- ・北陸新幹線と一体的に整備する福井森田丸岡線については、新九頭竜橋(仮称)の下部工事および中藤島地区、森田地区の道路工事を進めます。
- ・北陸新幹線の南越駅(仮称)と国道8号を、敦賀駅と国道8号バイパスをそれぞれ結ぶアクセス道路については、整備に向け事業化の準備を進めます。
- ・国道8号福井バイパスの整備については、工事促進を国に要請し、福井しあわせ元気国体までの供用を目指します。
- ・国道8号敦賀市田結～南越前町大谷間バイパス等の整備については、概略ルートの検討等を国に要請し、早期着手を目指します。
- ・県境道路である国道417号冠山峠道路については、岐阜県とともに工事促進を国に要請し、早期完成を目指します。

○敦賀港・福井港の機能強化と貿易拡大

- ・敦賀港鞠山南国際ターミナルの第2期工事を促進するため、新幹線工事などの建設発生土を利用した埋立工事を進めます。
- ・敦賀港鞠山南地区の岸壁整備については、国と港湾利用者を含めた検討会を開催し事業計画の熟度を高め、直轄事業としての早期採択を目指します。
- ・敦賀港において就航が期待される大型外国客船の安全な入出港を確保するために必要な防舷材や係船柱の整備を実施します。
- ・九頭竜川からの流入土砂対策として福井港北防砂堤の工事に着手します。

◇電車・バス・自転車の利活用拡大【部局連携】

○福鉄・えち鉄の高機能化

- ・えちぜん鉄道高架化事業について福井しあわせ元気国体までの完成を目指し、高架橋工事を進めるとともに、仮線運行に伴い5か所の交差道路について順次通行可能となるよう整備を進めていきます。

○自転車ネットワークの計画的整備・延伸

- ・観光拠点や眺望ポイントをめぐる道路に自転車マークなどの路面標示を行い、サイクリングコースのネットワーク化を進めます。
(平成27年度 31km増 累計189km)

21km増 累計210km (累計258km)

2 原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興

◇「安全最優先」の原子力行政【部局連携】

○原子力災害制圧道路等の整備促進

- ・新たに舞鶴野原港高浜線（高浜町神野～難波江間）の工事に着手するとともに、佐田竹波敦賀線のトンネル（美浜町北田～乙見谷間）と音海中津海線のトンネル（高浜町音海～田ノ浦間）の掘削工事の完了を目指します。

3 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）

◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】

○除雪対策の徹底

- ・パトロール、支障木の事前伐採、国、高速道路株式会社等との情報共有のための会議の開催および現地での想定訓練など、これまでの大雪時の課題に対する除雪対策を11月までに進めます。
- ・交通の要所である敦賀市～越前市間の高速道路および国道において、除雪体制の充実・強化を図ります。
- ・緊急医療施設周辺道路、最重点除雪路線、緊急輸送道路などについて順次消雪施設を整備します。（平成27年度 6 km増 累計 349 km）

3 km増 累計 352 km（累計 359 km）

○インフラ施設の長寿命化対策

- ・定期的な点検結果に基づき橋梁、トンネル、ダム、河川の排水機場、砂防施設、下水道施設、港湾施設などの維持・補修を行い、長寿命化対策を進めます。
- ・炭素繊維大手企業との共同研究により、強くて軽い補強部材を用いた橋梁補強技術の開発を支援します。

○足羽川ダムの建設促進

- ・足羽川ダムについては、ダム本体掘削に向けて、平成30年度までに工事用道路と仮排水路トンネルを完成するよう国に強く要請し、平成38年度の完成を目指します。

○河川の災害対策

- ・河内川ダムについては、本体コンクリート打設を進めるとともに小水力発電施設の工事に着手します。
- ・吉野瀬川ダムについては、用地取得を進めるとともに、付替えの必要な県道武生米ノ線の整備を進め、事業の推進を図ります。
- ・近年に浸水被害が発生した区間や想定氾濫区域内に家屋が集中している区間などを**重点的に整備**します。(平成 27 年度 990m 増)

1,200m 増 累計 2,190m (4 年間計 3,500m)

- ・迅速な住民避難につながる情報提供を行うため、洪水により甚大な浸水被害が生じるおそれのある河川に**監視カメラを増設**します。(平成 27 年度 2 箇所増 累計 18 箇所)

2 箇所増 累計 20 箇所 (累計 25 箇所)

○土砂災害対策の推進

- ・土砂災害警戒区域において**土砂災害から保全する人口を増やす**ため、砂防堰堤や急傾斜地崩壊対策施設などの整備を進めます。(平成 27 年度 268 人増 累計 35,590 人)

210 人増 累計 35,800 人 (累計 36,500 人)

- ・迅速な住民避難につなげるため、地域ごとの詳細な防災情報を提供するとともに、市町と連携し土砂災害を想定した避難訓練を継続して実施します。
- ・防災意識の向上のため、住民を対象とした土砂災害講習会や小学生を対象とした防災出前授業を開催します。

○空き家対策の強化

- ・中古住宅の流通を促進するため、ふくい**空き家情報バンクへの登録**を促します。(平成 27 年度新規登録 102 戸)

100 戸

◇「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】

○通学路や高齢者の安全確保

- ・自転車利用者や歩行者の安全を確保するため、市町の教育委員会や警察署と協議し、自転車安心通行帯の整備を進めます。(平成 27 年度 累計 17 km)

5 km 増 累計 22 km (累計 30 km)

4 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

◇日本一の「結婚・子育て応援社会」【部局連携】

○ふくいの住まい総合支援

- ・UIターン者の定住や多世帯の同居・近居に必要となる一戸建て住宅の購入、リフォーム工事への助成を行います。(平成 27 年度 65 戸)

120 戸

5 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇景観を県民資産に【部局連携】

○「わがまち景観」の保全・継承

- ・道路周辺の景観を改善するため、**道路標識柱等の集約化**を行うとともに、**標識の撤去**を進めます。(平成 27 年度 14 箇所)

10 箇所 累計 24 箇所 (4 年間計 40 箇所)

- ・福井しあわせ元気国体の開催や北陸新幹線の県内開業に向け、観光地や街並みなどの良好な景観づくりを推進するため、屋外広告物条例等の改正により基準に適合しなくなった広告物について、**広告主や広告事業者による撤去・改修**を進めます。(平成 27 年度 -)

140 件 (3 年間計 800 件)

- ・福井しあわせ元気国体に向け、主要な交差点の景観改善のため、福井市の市街地において、交差点周辺の空き地を休憩場所や緑化スペースとして有効に活用する方策を取りまとめます。
- ・足羽川において水辺に親しむイベント、川遊び、釣り体験などの**親水活動**の定着を図るとともに、史実に近い和舟による毛矢の漕舟体験を実施します。(平成 27 年度参加者 6,060 人)

6,500 人

- ・北陸新幹線等大型工事により生じる建設発生土の需給調整を行い、引き続き敦賀鞠山南 2 期工事や骨材等に利用するなど、土砂採取による山の切り崩しを抑制し景観を保全します。
- ・**河川の浚渫**や伐木を計画的に実施するとともに、産学官連携による検討会において新たな利活用策をとりまとめます。
(平成 27 年度浚渫土量 4 万 m³)

4 万 m³

○三里浜緑地の利活用推進

- ・身近に緑豊かな自然を楽しめるよう、樹林内の下草刈りや枝打ちにより緑地内の見通しをよくするなどの環境改善を行い、地域住民等に親しまれ、利用しやすい環境づくりを進めます。
- ・健康づくりのためのウォーキングや自然学習の場として自然観察会などを開催するほか、様々な活動の場として利用されるよう地域住民やスポーツ団体にPRし、自然とふれあえる活動を展開します。
- ・地域の観光振興につながるよう、緑地内に海や三里浜砂丘地を眺望できる場所を整備し、「道の駅」などと連携した利活用を進めます。

◇低炭素のまちづくり推進

○環境に調和した研究の推進

- ・建設技術研究センターにおいて、橋梁の長寿命化のため橋梁のコンクリート床版の劣化状況を簡易かつ安価に診断する技術を県管理の橋梁での調査に活用します。
- ・道路舗装の長寿命化のため舗装や基礎地盤を簡易かつ安価に診断する技術の実証実験を県管理道路で行います。
- ・農業ハウス倒壊の未然防止や効率的な除雪体制に活用するため、福井独自の降雪予測システムを完成させ、土木事務所等に情報を提供します。

6 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○100万人観光地の創出

- ・「道の駅」をより魅力的な観光や地域振興の拠点とするため、スタンプラリーの実施や「道の駅」が共同で開催するイベントへの支援等を行い、**利用客の拡大**を図ります。(平成27年入込者数(見込み) 380万人)

400万人(420万人)

7 行財政構造改革

◇150億円の「政策推進枠予算」を確保【部局連携】

○県有地の売却・利活用

- ・宅地建物取引業者間のネットワーク、インターネット公有財産売却システム等を活用し、**県有地の売却や利活用**を進めます。(平成27年度 4区画)

3区画 累計7区画(4年間計12区画)